

試料・情報利用研究計画書(概要)

審査委員会 受付番号	2022-1012	利用形態	共同研究		
研究題目	日本と米国における日本人女性の周産期転帰比較疫学研究		研究期間	2023年1月～2024年3月	
代表研究機関	東北大学医学系研究科	責任者 氏名・職	八重樫 伸生	教授	
分担研究機関	東北メディカル・メガバンク機構	責任者 氏名・職	栗山 進一	教授	
分担研究機関	スタンフォード大学	責任者 氏名・職	Latha Paraniappan	教授	
研究目的と意義	米国で生活することが、日本人女性の周産期転帰に与える影響を明らかにすることを目的とします。				
研究計画概要	米国National Vital Statistics System・Birth Dataのうち、2014年から2019年に出生した者、ならびに同期間の東北メディカル・メガバンク計画三世代コホート調査参加者を対象として横断研究を行います。米国のデータ解析をスタンフォード大学で行います。				
利用試料・情報	対象:三世代コホート調査に参加した母児 23,000組 試料:なし 情報:基本情報、続柄情報、調査票情報、カルテ転記情報、母子健康手帳情報、検体検査情報				
期待される成果	米国式ライフスタイルが、日本人の早産・低出生体重児出生に与える影響を明らかにすること、またそれに関連する因子を検討することで、日米のライフスタイルや周産期医療に関する課題の同定につながり、周産期転帰改善に寄与する可能性があります。				
倫理審査等の経過	2022年11月 東北大学医学系研究科倫理委員会承認				
倫理面、セキュリ ティ面の配慮	人を対象とする生命科学・医学系研究の倫理指針のほか、別途締結する研究契約を遵守して研究を遂行します。 利用する試料・情報は、東北メディカル・メガバンク機構スーパーコンピュータ内で限定された研究者のみがアクセス可能な状態で利用します。 スタンフォード大学には東北大学内で実施した解析結果のみが共有され、試料・情報そのものは提供されません。				
その他特記事項	東北大学寄附金				
(事務局使用欄)	* 公開日 令和5年2月1日				